

会議議事録

会議名	平成 30 年度第 2 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 30 年 11 月 18 日 (日曜日) 10 : 00 ~ 12 : 00
場所	本校 603 教室
出席者 (敬称略)	<p>① 委員 : 伊藤雄子(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者)、赤塚敦子(看護関連業界関係者) (計 7 名)</p> <p>② 学校 : 橋本正樹(校長)、宮下明久(事務局長)、前田律子(看護科担当副校長兼学科長)、小田真理子(字幕制作・速記者養成科学科長)、吉川香(医療秘書科学科長・医師事務技術専攻科長)、村山由美(医療秘書科副学科長)、黒田潔(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科長)、三宅かおり(医療マネジメント科副学科長・教務委員長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)、宮嶋貴与(鍼灸医療科学科長) (計 11 名)</p> <p>③ 事務局 : 松本晋圭、川内靖美、手塚理恵子 (計 3 名)</p> <p>(参加者合計 21 名)</p>
欠席者	樋本慶(くすり・調剤事務関連業界関係者)、伊東由美(看護科副学科長)
配付資料	<p>①事前送付 :</p> <p>□資料 1 : 平成 30 年度学校関係者評価委員会名簿、□資料 2 : 平成 30 年度第 1 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 3 : 平成 29 年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方の中間点検、□資料 4 : 平成 30 年度重点目標と達成するための計画・方法の中間点検、</p> <p>□資料 5 : 平成 30 年度学校関係者評価報告書検討資料、□資料 6 : 平成 30 年度学校関係者評価報告書様式、□資料 7 : 平成 30 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告(別添 A : 平成 30 年度進路決定状況、別添 B : 平成 30 年度前期授業アンケート集計結果、授業アンケート集計結果報告シート、別添 C : 平成 30 年度学校生活に関する調査・挨拶に関するアンケート用紙、別添 D : 平成 30 年度教員研修計画・実績、別添 E : 2018 年度共通基礎学力テスト分析、別添 F : A O 入試入学予定者への入学前指導プログラム、別添 G : 平成 30 年度学生募集状況</p> <p>②当日配付 : 別添 E : 2018 年度共通基礎学力テスト分析 (再配付)</p>
議題等	<p>1. 事務局より新任委員の紹介(説明者:事務局松本)</p> <p>赤塚委員は看護関連、樋本委員はくすり・調剤事務関連の業界関係者として、新たに委員に加わっていただくことになった。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p>18 歳人口の減少に伴って高等教育機関は大きな影響を受け、専門学校は一条校を目指すグループと専門学校が本来持っている教育の自由度を活用するグループの 2 派に分かれている。一条校化の面では、専門職大学として大学 2 校、短大 1 校が認可された。本校は既に学園に一条校があるので、特徴をいかに生かすかを考えていきたい。</p>

次年度に向けての出願が始まっているが右肩下がりの状況である。施設を活用しながら、専門学校に期待されている学び直しの社会人教育と介護分野を中心とした留学生の受け入れを拡大して、学生数の減少を補いたい。

今回は上半期の報告になるが、先生方のご意見をぜひ賜りたい、との挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：保坂委員長）

前回議事録（資料2）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に意義なく、確認、了承された。

4. 経過報告（説明者：宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局松本）

平成30年度第1回委員会以降の主な経過について、各担当より資料7に基づき報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組状況報告

事務局より、資料3の構成及び中間点検の記述経過について説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成30年度重点目標の中間点検報告について

橋本校長より、資料4に基づき、今年度の3つの重点目標（①TPCの育成と強化、②学び直しの教育プログラムの開発、③ビジョンの共有とアクションプランの策定）について中間点検報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 平成30年度学校関係者評価報告案について

保坂委員長より、前回委員会において質疑をいただいた平成29年度活動の自己評価報告に対する本委員会の意見を、平成30年度学校関係者評価報告書検討資料（資料5）としてまとめたので、重点目標、各評価項目の順に質疑をお願いするとの説明があり、資料5の構成について事務局より説明の後、検討を行った。

審議の結果、報告文書の最終的な整理とまとめは保坂委員長に一任して、平成30年度学校関係者評価報告が確認、了承された。詳細は、別紙のとおり。

なお、各委員の総評について、委員長の指名順に発言をお願いした。詳細は別紙のとおり。

8. 意見交換など

主に授業アンケートについて意見交換が行われた。

9. 次回日程、その他

事務局松本より、第3回は3月中を予定、平日も選択肢に入れた日程調整に協力を賜りたい旨、説明が行われた。

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、閉会した。

以上

別紙

平成 30 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告について

○平成 30 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告について、宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局松本より資料 7（別添 A～G）に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連

(1) 退学

- ・個人情報を削除した上で「退学者・学籍異動の記録」と「退学防止の事例記録」を学内ネットに掲載して役立てている。
- ・科目毎の欠席届を担当に提出することで欠席情報を把握している。
- ・学生委員会を中心に対策を進めている。

前期：夏休み前と後に 1 年生担任に対して退学の意向申出者への対応経過について調査し、夏休み明けの担任からの連絡、学生委員からの Gmail による保健室・学生相談コーナー利用促進などの対策を進めた。

後期：前期と同様の調査を 12 月及び 2 月に実施して対策を進める。調査結果を学科にフィードバックして学科での対策にも生かしてもらう予定。

- ・ A O 入試入学予定者に対する入学前指導プログラムの見直しを行っている。（別添 F 参照）

(2) 就職活動

- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。（別添 A 参照）

2. アンケート関連

(1) 平成30年度の実施状況

	授業アンケート		学校生活に関する調査
期間	前期：6/18（月）～22（金）	後期：12/3（月）～7（金）	12/3（月）～14（金）
対象	・全学科		
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度前期・後期授業アンケート実施計画、実施手順を修正 ・単純平均値と自由記述（別添 B 参照） ・結果へのコメント記述 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度学校生活に関する調査実施計画、実施手順を修正 ・12/3 以前のインターンシップ専攻生は個別実施
質問	・平成 29 年度改訂版		・平成 29 年度改訂版（別添 C 参照）
実施科目	<ul style="list-style-type: none"> ・前期科目及び通年科目 ・306 科目 7, 198 回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期科目及び通年科目 ・科目番号を確認中 	・挨拶に関するアンケートを合わせて実施
結果報告	・7/2～科目担当者に手渡し	・12/17～科目担当者に手渡し	・平成 31 年 4 月学科教員会
公表	・内部：平成 30 年 10 月～	<ul style="list-style-type: none"> ・内部：平成 31 年 5 月 ・外部：平成 31 年 5 月 	・内部：平成 31 年 5 月

3. 教務委員会関連

(1) 平成 30 年度実施計画・実績（別添 D）

- ・職業実践専門課程の認定要件に基づく研修及び教務委員会主催の外部講師招聘研修。
- ・専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施するもの。

・授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施するもの。

(2) 平成 30 年度入学生の基礎学力調査結果（別添 E 参照）

(3) A O 入試入学予定者への入学前指導プログラム（スクーリング）（別添 F 参照）

5. 職業実践専門課程関連

(1) 教育課程編成委員会の開催

	医療事務分野教育課程編成委員会	福祉分野教育課程編成委員会
認定課程	医療秘書科、医療マネジメント科 (診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科)	介護福祉科
第 1 回	7/26 (木) 13:00~15:00	7/18 (水) 13:00~15:00
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度の教育活動と学科運営、計画等について ・平成 30 年度教員研修計画 ・平成 30 年度の重点目標について ・平成 31 年度カリキュラム編成について（医療事務系） 	
第 2 回予定	2/21 (木) 15:00~17:00	2/20 (水) 10:00~12:00

6. 平成 30 年度活動の自己点検・自己評価関連

(1) 活動の予定

日程	実施内容
2/下～ 3/中	<input type="checkbox"/> 2 月点検委員会から活動開始 ①平成 29 年度学校関係者評価報告書からの意見・課題の年度末点検（各担当） ②平成 30 年度重点目標の年度末点検（校長） ③部署、担当毎に該当する点検項目について平成 30 年度活動の自己点検・自己評価 ・使用基準：私立専門学校等評価研究機構「専門学校等評価基準書 ver4.0」
3/下	<input type="checkbox"/> 平成 30 年度第 3 回学校関係者評価委員会へ①と②の点検結果報告 <input type="checkbox"/> 3 月点検委員会で③の全体まとめ、自己評価報告書の作成、参考資料確認
4/下	<input type="checkbox"/> 4 月点検委員会で④平成 30 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）作成、⑤平成 30 年度学校関係者評価報告書からの意見・課題の進め方確認
5/下	<input type="checkbox"/> 5 月点検委員会で⑥平成 31 年度重点目標の確認
7/中～下	<input type="checkbox"/> 平成 31 年度第 1 回学校関係者評価委員会へ④の報告、⑤⑥の説明

7. その他

(1) 平成 30 年度学園祭

・準備日 11/29 (木)

・開催日 11/30 (金) 前夜祭、12/1 (土) 一般公開

○就職活動の状況については、宮下事務局長より以下の補足が行われた。

・昨年度と同様、内定状況は好調に推移している。

○授業アンケートについては、事務局松本より以下の補足が行われた。

・前期の授業アンケートは 6 月 18 日から 22 日に実施した。後期は 12 月 3 日から 7 日にかけて実施する予定である。学校生活に関する調査は 12 月 14 日までの期間で実施する。

○教務委員会については、三宅教務委員長、事務局松本（教務委員兼務）より以下の補足が行われた。

・今年度の教員研修計画・実績は昨年度と同様の研修数となっている。

・8 月に「学生を巻き込む授業を創る」というテーマで研修を実施した。

- ・ 2月末または3月にファシリテーション研修を予定している。
- ・ 共通基礎学力テストと学習成績の関係は、相関係数が 0.4 以上であれば関連があるということでデータを追っている。
- ・ 平成 31 年度生AO入試入学前指導プログラムの前年度との変更点は、AO入試合格者に加えて看護科の公募推薦入試合格者を第3回のスクーリングのみ対象とした。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 就職活動状況について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□就職先の特徴として、昨年度より大学病院への就職者が多いという報告があったが、その理由として求人数が多かったと解釈してよいか。	□しばらく求人が途絶えていた病院から求人をお願いできたこと、新規の求人先が増えた点が大きな要因である。一つの病院で多く採用いただいているケースもある。

(2) 共通基礎学力テストについて

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□共通基礎学力テストの平均値は単純平均値か。	□単純平均値である。

(3) 教員研修計画・実績について

□職業実践専門課程の特徴の一つに教員の企業との連携とあるが、平成 30 年度教員研修計画・実績の一覧に入っているか。	□関連分野の方による研修は、11 月に「病院マネジメントから医師事務作業補助者の活用とその効果」というテーマで病院の方に特別講演をしていただき多くの教職員が話を聞いた事例がある。もう一つ、医療マネジメント科、診療情報管理専攻科では、将来の進路選択を考えさせるために1年生に向けて診療情報管理士関連の講演を行っているが、今年度初めての試みで病院の診療情報管理士の話を聞かせた。事前に診療情報管理分野の教員と相手の職員が頻繁にやりとりをし、現場における具体的な事例のリサーチができたようである。
--	---

5. 平成 29 年度学校関係者評価報告書に示された意見、課題への取組状況報告について

○保坂委員長より、記述した各担当から追加のコメントがあればいただいた上で、ご意見、ご質問をいただきたい旨、説明があった。

(1) 退学防止について

<p>□ハイパーQUとはどういうものか。</p> <p>□医療秘書科の中間点検に、AO入試入学生は、例年より学校生活に積極的な取り組みが見受けられるとあるが、具体的にはどのような取り組みか。</p> <p>□入学前指導プログラムの成果が出ているということか。</p> <p>□退学防止対策に関して、AO入試入学生以外の学生についても退学の兆候を把握しているか。</p>	<p>□アンケートによる心理分析のようなツールである。学生との向き合い方に反映させたいとの思いから、医療秘書科、医療マネジメント科の今年度入学生に対して実施した。</p> <p>□退学の可能性があるような学生のピックアップに役立つツールである。次年度以降は他学科も実施できればと思う。</p> <p>□AO入試入学生の特性として、欠席が多い傾向があったが、今年度のAO入試入学生は事前にスクーリングで友達づくりができ入学時から顔見知りがいるためか、積極的に登校してくる傾向がある。7月の体育祭でも声が出て表情も明るく、雰囲気ポジティブなタイプが多くなった。</p> <p>□グループができ上がってしまうと不都合な部分も生じる可能性があるが、積極的である。</p> <p>□AO入試入学生への退学防止対策としては、医療秘書科が先行している。入学前のイベントに加えて個別対応、連休前後のメール等である。ハイパーQUで退学の因子が見られるAO入試入学生に対しても対策を重ねることによって退学防止を進めていきたい。</p> <p>□全入学生に対して退学の兆候があるかどうかを調査している。</p>
--	--

(2) 教育課程への外部意見の反映について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□卒業生はどのような目的で来校しているか。</p> <p>□医療マネジメント科では卒業生からどのくらい情報収集ができていますか。</p> <p>□実習先の情報を常に収集していくと指導に役立つと思うし、病院の状況は変わっていくので最新の情報を得るように機会があればn数は多くとっていただきたい。</p>	<p>□仕事上の転換期を迎えていたり、お祝い事の報告だったり、目的はさまざまである。卒業生同士が学校で待ち合わせをするケースもあり、親近感のあるよい環境ではないかと思っている。</p> <p>□5月の就活支援イベントで、働いている卒業生の話を学生に聞かせている。具体的な仕事内容、職場の状況、将来展望等、キャリアサポートセンターだけでなく学科でもリサーチすることは可能である。</p> <p>□おっしゃるとおりだと思う。病院実習を終えた学生や早期勤務に行っている学生からもリサーチしている。コンスタントに卒業生から情報収集するシステムは、着手しつつあるが検討事項の一つではないかと思う。</p>

	<p>□卒業生の就業状況についての情報収集は、学科による事情がかなり違うので各学科で検討することになっている。医療マネジメント科では定期的に Gmail でアンケートを実施し、そこから問題を抽出できるように検討中である。手始めとして、学園祭において学科の部屋を設け、そこに来た卒業生から聞き取っていきたいと考えている。就業してからもきちんとフォローしていきたいと思っているが、何が一番有効かということは今模索中である。</p>
--	---

(3) 資質向上への取組について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□教員の質を高めるために授業参観に取り組まれているが、参観した後の評価や意見交換はどのようにされているか。</p>	<p>□参観した場合は参観レポートを公開者に提出し、公開者は参観レポートを読んだ上でどのように改善していくかという内容の公開レポートを作成することになっている。参観して終わりではなく、どう思ったか、どのように自分の授業に生かすかということはP D C Aサイクルとして行っている。今年度は後期に実施し、公開授業の比率が上がった。</p>

(4) 中途退学への対応について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□今後留学生が増えてくるということで選考のときに留学生に対して特別なことをしているか。</p>	<p>□一部の留学生はレベルが高いので、日本語に苦しんでいるとか授業が理解できないということはない。むしろ日本人学生のほうがもっと勉強しないといけない状況である。2年生になるとより専門的な内容の科目になるので、そこで理解にばらつきが出てくるかもしれないというふうに見ている。理解度が足りない学生には補講なり個別対応を考えていきたいと思っている。</p> <p>□入学基準のN2を守ってきていることもあって能力的に高い留学生が多い。本校では留学生に対して日本語の教育も含めてしっかりした信頼される教育を提供したい。</p>

(5) 保護者との連携について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
------------	-----------

<p>□医療秘書科の保護者会の開催について記述があるが、出席人数、内容、感想をお知らせいただきたい。</p>	<p>□2時間を想定して行い、40分ぐらいで学校、学科、ふだんの状況、2年生の検定試験取得状況、就職内定の話をし、残りの80分ぐらいでご家族と担任との面談を行った。参加者の話を伺うと、担任と直接話をしたい、学生のふだんの様子を聞きたいということが主目的だったようである。参加率が高まった場合、主目的を達成するためにはさらに長い時間を設ける必要があると思っている。一定の情報量はふだんからご家族にも提供することが必要と反省している。</p>
--	---

6. 平成29年度重点目標の中間点検報告について

○橋本校長より資料4に基づき以下の説明が行われた。

①TPCの育成と強化

- ・人生100年時代を生きていくにあたり学び直しができる人材の育成が課題だと思っている。自ら考え積極的にコミュニケーションをとりながら生きていく人材の育成に、引き続き各学科、学校行事等で取り組んでいるところである。

②学び直しの教育プログラムの開発

- ・専門学校の本来の役割でもある学び直しについては、文科省のほうから要請がある。本校は駅から徒歩1分という非常に便利なところにあるが、現在はあまり活用していない夜間、休日の校舎を有効活用したいと思っている。現在、プロジェクトチームで具体的に動き始めている状況である。卒業生支援講座での試験的な実施もあわせて進めていきたい。

③ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・専門学校の方向性については、教職員の共通理解がなければならない。教職員が一段高い視点で状況を把握するため、校長主催の研修も行った。本校の医療事務系の教員、事務職員、関連の短大、看護科実習先の病院の事務の方々の参加により、病院の方より医師事務作業補助者について病院マネジメントの観点からお話いただいた。医師事務作業補助の仕事は一旦退職して何年後かに戻ってもそのまま使えるということなので、そういう趣旨からも医療事務系は考えてもいいのではないかと。幸い本校は医師事務技術専攻科があるので、カルテの代行入力を含めて本校の強みを生かした言葉に関する教育も医療業界と具体的に進めているので、そういった方向にも共に進もうという意味でのビジョンの共有、アクションプランの策定を、校長及び校長室で進めているところである。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□字幕制作関連、調剤事務関連の卒業生支援講座はどうだったか。</p> <p>□字幕関連の講座に参加した同期生の方々も言っていたが、これから速記の仕事をやってみようという人が速記業界の状況を知りたいというところもあったようである。字幕業務の説明とともに会社説明会みたいという反応があったのが残念だった。特定の学科に限らないが卒業生</p>	<p>□本校の場合、既にない学科も校友会に含まれるが、医療事務系対象の校友会になってきている。今後学び直しの講座を実施する場合にはその対応はきちんとしたいと思う。年明けに校友会を予定しているが、教育の面からも校友会組織をもう一回立て直したいと思っている。教育に関して協力をいただく関係で、関連企業にオープンキャンパスでデモンストレーションを行っていただい</p>

<p>に対するリスペクトが足りないのではないか。久しぶりに来校した卒業生に対しての声かけ、接し方が通り一遍で、これでいいのかと思った。字幕制作・速記者養成科をどういう思いでつくったか、こういう人を集めたいというようなことを校長が話すべきだったと思うが、その場もなく淡々と進んだので、その辺は今後学校全体で考えていただきたいところである。</p> <p>□募集広報協議会、進路指導協議会は定期的実施しているか。</p> <p>□2つの会を校長、校長室の運営に改めた理由は、先ほど述べられていたようなところからなのか。</p>	<p>た。これからの教育は自校だけで成り立たないし専門性も上がっているので、業界との連携で人を育てることになる。その他の関連企業等ともタイアップしてやっていきたいと思っている。調剤事務関連の講座は、台風の日だったので参加数が少なかった。</p> <p>□調剤事務の講座と2月に予定している登録販売者の講座の2つに関しては、本校で今後開講を予定している調剤事務講座、登録販売者養成講座のニーズを掘り起こしたいという目的だったが、参加者全員が開講予定の講座に興味があるとのことで、当初の目的は達成されたと捉えている。</p> <p>□原則として月1回実施している。進路指導協議会は国家試験系の学科は含まず、分科会の形で医療事務系の学科が中心となっている。</p> <p>□これまで募集広報協議会は広報室長、進路指導協議会はキャリアサポートセンター長が運営していたが、意見がまとまりにくいところがあったため、具体的にまとめていくことを考えて、校長、校長室が運営している。</p>
---	--

6. 平成30年度学校関係者評価報告案について

- 最初に事務局松本より、資料5、6に基づき平成30年度学校関係者評価報告案について以下の説明が行われた。
 - ・学校関係者評価報告書を最終的に保坂委員長から橋本校長に提出していただく形になる。評価報告書については資料6に委員の方々のお名前が載っていて、裏面に本日いただく総評、資料5の学校関係者評価委員会の評価、意見及び提案を添付して今年度の学校関係者評価報告書となる。資料5については自己評価の要点と見比べたほうがお読みいただきやすいということで、資料5のほうで確認していただき、資料6を最終的に作成する流れになっている。資料5について修正等していただき、資料6の総評を記入して年内に委員の皆様にはお送りする。それをご確認の上、修正等があればお書きいただいて返送していただく予定である、例年は年内に保坂委員長に最終確認していただいて校長に提出という形になるが、今年は記録担当が異なっているので、評価報告書の提出自体は、年末から1月の中旬ぐらいの間と考えている。
- 保坂委員長より、全体を通して表現や内容について何かあった場合にご意見をいただく形で進めたいとの説明があった。
- 委員からの意見は次のとおり
 1. 教育理念、目的、育成人材像
 - ・卒業後40年とあるが、資料3の中で2-40というのは象徴的な表現とあるので、40年という明確な数字ではなく、別の表現にしたほうがよいのではないか。
 - ・おっしゃるとおり、40年にはこだわらないので、「卒業後40年」の記述は改めるべきと考える。た

だし、「2-40」については募集広報等において定着している表現でもあるので、タイミングを見て改めることを検討したい。

3. 教育活動

- ・教育活動の目標の設定の中に、復元力とか人間力とあるが、わかりにくさがあるので他の表現にすれば対外的に理解されると思う。
- ・復元力は、文科省や教育の場でレジリエンスというよく通っている言葉がある。人間力は、AIに仕事を奪われる中で人間ならではの仕事、人間としての能力ということで、事務局で考えていただければと思う。

○保坂委員より、以上で報告書の審議を終了した。最終確認は事務局と委員長に一任してほしい旨の発言があり、確認、了承された。

○最後に、保坂委員長の指名順に各委員の総評が行われた。

- ・重点目標として取り上げられた退学防止への今までの試みが実を結んで退学者が減ったということなので、今後もいろいろな面で学生をサポートしてなるべく退学者をゼロに近づけるようにしていただきたい。
- ・校内的には退学防止などで教育成果が上がっていると思う。医療秘書科では保護者会を初めて開催するなど先生方が非常に努力されていることがよくわかる。アンケートについてはどの項目も良好な結果が出ているが、相対的に見ると、授業中に居眠りはしていないという項目と、教員は見やすさ、わかりやすさに配慮して工夫しながら授業を進めているという項目の数値が若干低いという結果が出ている。ここ数年教員研修が活発化してきて授業改善にも取り組まれているが、以上2点も他項目の数値に近づくよう授業の質の向上に努めていただければと思う。
- ・募集に関する意見が出ているが、報告書を待っているとおこなってしまうので、再来年の募集に反映できる意見は校長判断で早くから現場に落とし込んでいっていただきたい。

資料に触れられてはいないが、少年法改正に関して成人年齢が20歳から18歳に引き下げられることが閣議決定された。大人として入学してくることになると扱いがさま変わりするので、学校運営で懸念することがある。一つは経済生活で、ローンとかクレジットが独自の判断でできてしまう。悪いことをしたときに少年Aではなくて名前や所属の学校名、企業名が出ることもある。大人の扱いを考慮して入学案内書や学生生活ガイドを見直す必要があるのではないかな。

- ・校長の話で、入口と出口が大事というのはまさにそのとおりだと思う。入口のところでは入試のフォローや留学生についての準備、教育については研修とか授業公開に努力している。出口についても2-40、卒業生フォローを充実していこうとしている。入口、出口、教育の3つのステージについてバランスよく考え、実践されているという実感を持っている。引き続き質を高めていくことを期待している。
- ・30年前に本校を卒業したが、その当時からの良心的な学校という印象は今までの話を聞いていても基本的に変わらず、教育、広報、就職それぞれの担当の方々が真面目に協議してやっていると思う。18歳人口が減ってきて、福祉分野は学校というより業界の不人気というところがあるが、今後も良心的な部分は継続しながら、生き残るために柔軟性を持って業務に取り組んでいただければと思う。
- ・退学防止については、面接が丁寧に行われ、アンケートで退学の兆候がある学生を早目にピックアップするなどさまざまなことに一生懸命に取り組まれ、成果が出ていると思う。反面、これからどういう方向に進んでいきたいかと迷っている人たちもたくさんいて、今選んだ方向に行くほうが本当によいかということでは適切に判断できるように支援することが大事ではないかと思っている。その

人に適性があるかを決めるのは難しいが、現場には専門職として働いていく上での厳しさがあるので、教員と一緒に考えていけたらいいのではないかと思う。退学が決していけないことでもないのかなと認識している。今後の取り組みとして、校長先生がお話しされていた外国人の支援とか働いている人たちの学び直しは社会が求めていることで、先を見越して運営していくことがとても大事だと改めて思った。

- ・この委員会では3つぐらいキーワードがあったと思う。学生個々の分析を指導に生かして丁寧に向き合うこと、それから卒業生支援についての議論、広報をもっと工夫するべきという意見があったと思う。それらの中で、AO入試の入学前指導プログラムは、学内を巻き込んで、参加者に対しても手厚く丁寧に行われたと思う。一方で、卒業生支援講座は残念ながら卒業生に対するリスペクトが足りない部分があったような気がした。そのようなことを全体で考えていただくといいと思った。

8. 意見交換

- ・学び直しの講座をこれから設けていくということだが、休日などに塾関係への施設の貸し出しを行っているか。
- ・施設の貸し出しは現在行っている。
- ・中学受験向けの教育をしている会社の定期テスト、通信制高校のスクーリング会場としてご利用いただいている。
- ・授業アンケートの目的は授業改善に役立てることだと思うが、このアンケートで本当にその効果があるのかわからない。授業改善には、今行われている授業公開、授業参観が一番役に立つ。全くやらないわけにいかないと思うが、もう少しアンケートの内容を易しいものにしてみたらどうかと思う。細かな分析結果を現場の教員が見て改善しようとは思わないと思う。一番参考になるのは記述部分ではないか。質問の項目と分析の仕方を改めてみてはどうか。来年度の取り組みとしてその辺を考えていただけたらと思う。
- ・自己点検・自己評価委員会事務局として、回答させていただきたい。昨年度の後期アンケートから、アンケートを見てどう思ったか、あるいは今後どうしていくかということ常勤教員に簡単に書かせるシステムを始めた。各学科長に提出という形をとり、次回の後期アンケートで3回目となる。授業改善については、PDCAサイクルを意識してアンケート結果を見る形が始まったところである。アンケートは3年ごとの改定が通例になっている。内容についてはご意見を踏まえて、必要なことが回答できるようなアンケートを今後検討していきたいと思う。
- ・今の事務局からの回答を踏まえて、授業アンケートについてご意見をいただければと思う。
- ・居眠りをしていないとか、スマホを使っていないとか、そういうことをアンケートで問う必要があるのかと思った。実際に授業をやっていると学生が何をしているかよく見えるので、それは授業の様子から自分で評価すればいいと思う。どちらかという講義の内容とか、内容が伝わっているかどうかという評価の視点のほうが今後の授業の参考になると思う。
- ・評価を受ける立場としては、自由記述のところは注意して見る。アンケート調査そのものについては、知りたいことは個別にいろいろあるが、どういうテーマで何を聞きたいのかということから設問をつくり上げていくことも必要かと思う。
- ・アンケート結果が個々の先生方の授業改善にどのくらいつながっているかという点は、多少疑問符はあるが、相対的な様子はいかがであるのではないかと思う。アンケートも授業改善につなげるための方法の一つだが、教員が学生からどういう評価を得て次にどう実践していくかということが授業1コマごとにあると思う。それを教員がどのくらい実践しているかということが重要なのではないか。

個々の授業の中でPDCAサイクルがどのくらい機能しているかを考えていただきたいと思う。

- アンケートをとったほうがいいのは間違いないと思う。細かく精度のあるものをまとめるのはいいが、内容を絞ったとりやすいアンケートで、それがきちんとフィードバックされて、先生方の授業の改善につながるという実効性に重点を置いていただければと思う。どの資料も簡潔に要点を絞って、実効性があるものにすることが大事だと思う。
- アンケートには居眠りをしているか書いてほしいと書くだらうし、どれだけ学生が真剣に回答しているのかと不安な項目もあるので、それも見極める結果だと思う。授業の内容が学生に伝わっているかどうか保護者としては一番知りたいところでもあり、先生方にも学生に内容が伝わっているかわかるような結果であるといいと思う。
- 先ほど実効性が大事というお話があったが、やはりそこが重要だと思う。確かに授業の改善のためにレポートを書いてそれを学科長とか校長が確認するということが行われているが、果たして実効性があるのかと考えてしまう。そういうシステムだから書くのだから、書けている割には実効性が上がらないような気がするところもある。それより本来やるべき授業と授業準備に先生が力を割いたほうがいいと思うところがある。
- 授業アンケートは学生の側から見た感想なので、教員として見た場合、わかりにくいと書いてあるけれども本当にわかりにくいのか、学生の側に問題はないのかということは、学科長を含め検証している。兼任教員は授業公開に参加される率が低いので検証できない現状である。常勤教員の場合は相互チェックができていて、ある程度PDCAサイクルが回っていると思う。今年度は兼任教員の授業公開の参加人数を伸ばすことはできなかったが授業公開を学校全体に広げて、授業アンケートと授業公開をリンクさせていくことが必要ではないかと思っている。
- 授業アンケートと授業公開をリンクさせていくことは仕組みとして考えている。授業アンケートは当初、実施にあたって抵抗もあった。人事考課には反映させない、教員個々の教育改善に役立てるという趣旨で始まったが、昨今の事情で言うと、管理上の視点も多少入れなければいけない。質問項目は3年ごとに改定している。学生自身に居眠りのことを問いかけているが、実は自由記述の点でアンケートが荒れたというか学生が書きたい放題というようなことがあって、学生自身にも、授業にきちんと向き合ってもらうための仕かけの質問として居眠りについての項目を入れた経緯がある。ただ、アンケート週間は学生からすると毎授業のアンケートで、いちいち丁寧に答えられないこともある。時期的には前後期とも授業期が終わる前に実施し、少しでも残りの期間の授業に生かせるような形のフィードバックとして、1週間後くらいに結果を出している。まずはきちんとアンケート結果を受けとめていただくことが必要で、今後に向けたコメントを兼任教員にもいただく形も進めていきたい。改善の余地が多々あると思うので、授業アンケートを生かすという点で、このような場でまた具体的なご提案もいただければと思う。
- 質問項目の点で、例えば、授業の目的や学習の目的、期待していることや役立ったことと2つのことを聞いている。これはダブルバーレル質問と言って、アンケート調査にはあまり適さない質問の仕方だが、それが非常に多い。質問の文章についても気をつけたほうがよいと思う。
- 具体的な意見が出てよかったと思う。

以上